

能力の振れ幅

義高 互

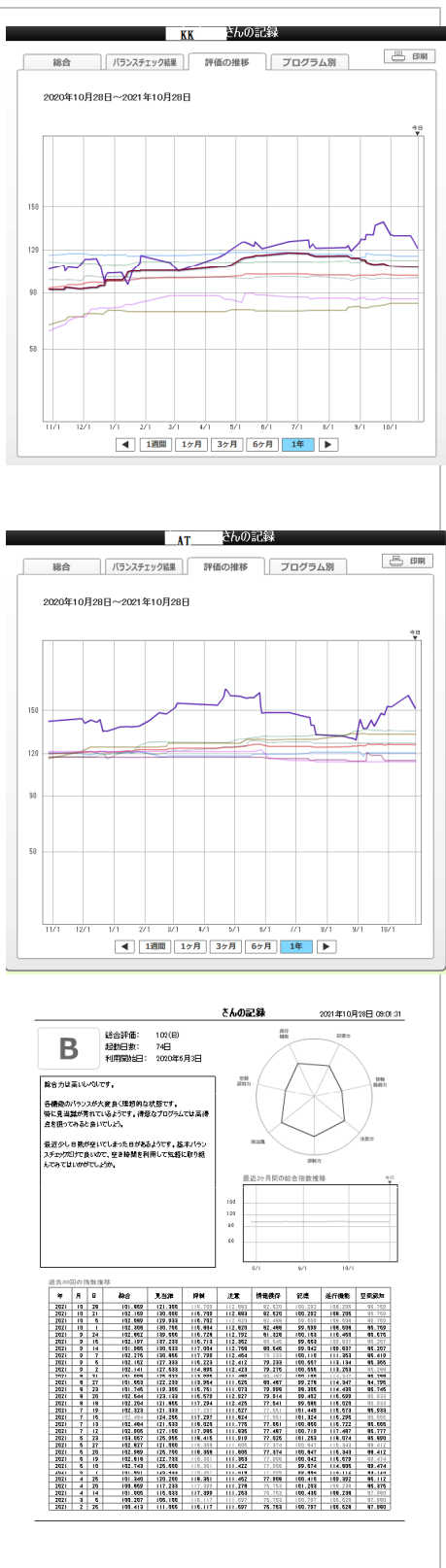
人の基礎的な能力は揺れ幅が大きいかもしれない、という事を提示します。

私が個別支援をしていた時、高次脳機能トレーニングをして日々の記録をつけていました。ビジョントレーニングに近いものです。8項目でスコアを測定してトレーニングするものです。日々のスコアを残していくと気づいたことがありました。

それは生徒によって、期間によってですが、数字の揺らぎ幅が大きい時があったのです。たとえばその期間を抽出した この表です。一番下 9月2日のスコアで見たら情報獲得能力に優れるが、記憶力が劣る、という結果です。しかし表の真ん中10月15日のスコアを見てください。この日は情報獲得能力は劣るが、記憶力に優れるという全く逆の結果です。いつもこういう逆転現象があるわけであまりません。しかし各項目を線グラフにした表を見てください。

各個人で揺らぐ項目は違いますが、日々 揺らぎがある項目があります。各項目を総合して活用する学力などは大きく揺らがないようですが、人の基礎的な能力は日々揺らぎが大きいものがあるようです。これから考えると人の基礎的な能力は1,2回だけの一発測定ではなく、継続して測定する必要があるように思います。

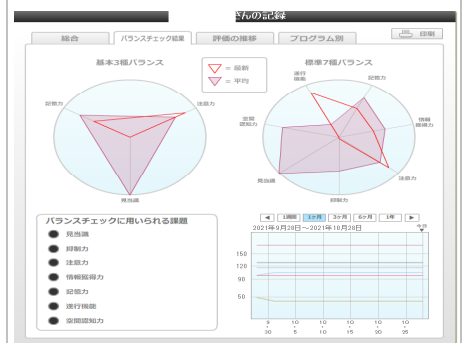
多人数での一斉検査も、同じ日、同じ条件で同じ問題をするので誤差が少ないと思います。さらに、継続測定するものが望ましいでしょう。そうするとみんな一斉に同じものを継続してする検査などありえない、と思うかもしれません。実は普通学校では、あります。NRTです。全員



同じ日同じ条件で同じ設問で行います。しかも毎年、継続して行われます。

この観点から行くと、一人だけ数年に一度行う検査より、NRTの方が検査精度としてより高いものと思われます。

年	月	日	総合	見当識	抑制	注意	情報獲得	記憶	遂行機能	空間認知
2019	12	13	108.654	140.800	115.645	114.266	87.509	130.712	111.726	89.529
2019	12	12	107.666	140.200	115.116	114.263	87.509	129.650	109.005	89.529
2019	12	3	105.597	139.719	115.440	114.215	87.509	129.795	109.005	82.946
2019	12	2	106.328	139.372	115.559	114.181	87.820	130.582	111.001	84.881
2019	11	20	105.248	142.400	111.906	114.188	71.872	129.938	111.001	84.881
2019	10	15	106.675	137.846	111.422	114.026	59.444	131.141	107.913	83.749
2019	10	11	107.521	137.666	107.331	113.885	101.596	130.820	104.000	89.168
2019	9	28	107.017	134.666	104.292	113.841	101.666	130.946	104.030	89.168
2019	9	10	104.152	148.285	104.292	113.781	101.666	133.136	95.679	89.168
2019	9	9	104.832	152.222	104.292	107.375	101.666	129.690	95.678	73.429
2019	9	5	97.061	156.166	104.292	103.672	101.666	82.236	88.843	73.429
2019	9	2	98.482	169.555	103.157	96.758	101.666	71.052	96.446	182.000



基礎的な能力は振れ幅が大きい？

数年の一回一発測定でなく

* 継続的に測定する事が望ましい

* 一斉に大人数で同じ問題を も望ましい



基礎的な能力は振れ幅が大きい？

数年の一回一発測定でなく

* 継続的に測定する事が望ましい

* 一斉に大人数で同じ問題をも望ましい



測定の精度が向上

END